

## 【一般口演1】 第2席

## 『医学綱目』の鍼灸

宮城 浦山 久嗣

『医学綱目』は1565年に刊行された医学全書である。著者の樓英は元末明初の醫家であり、戴原禮と交友があったと伝えられている。生没年については、黄龍祥主編『針灸名著集成』（華夏出版社1996年刊）の未収針灸名著提要では1332～1400とするが、その他の文献では1320～1389としている。本書の成立年代について、黄龍祥氏（前掲書）は、

編『医学綱目』，洪武十三年（1380）編成初稿，醫林爭傳抄；次年又作増補，1396年再次修訂時，將其新作『運氣類注』附于書後（據『仙巖樓氏宗譜』）。據此，『医学綱目』一書最後定稿于洪武二九年。

と述べており、洪武二十九年は1396年である。『医学綱目』卷十五・咽喉には、

洪武戊辰春、郷村病喉痺者甚衆。蓋前年終之氣、及當年初之氣、二火之邪也。…

と細字で記されており、少なくとも洪武戊辰（1388）以後の成立であることは確実である。しかし、本書の引用する書籍は、『十四經發揮』（1341）・『衛生寶鑑』（1343）、『格致餘論』（1347）などより成立年の遅い書名は見出だし難く、事實上、『医学綱目』は金元医学を集大成した最初の著作の一つと言える。

『医学綱目』の鍼灸は、穴位を『靈樞經』本輸篇と『銅人腧穴鍼灸圖經』に依據し、主治を『内經』と『鍼灸甲乙經』及び金元の鍼灸諸家に求め、医学全書でありながら鍼灸關聯記事が多いという際だった特徴を持つ。本発表は、『医学綱目』の鍼灸部分に着目することで、金元鍼灸の受容の一側面を探る試みである。